

去勢という知恵

誰が最初に行ったかについての記録はない

- **淘汰しようとする形質をもつ雄の雌からの隔離**

交配に使いたい雄と使いたくない雄の選別

- **去勢: 性腺、とくに雄の精巣を強制的に除去**

ヒトの意志を強力に、かつ明確に反映

ヒトによって選ばれたもののみが、子供を作れる

- **優良な雄の選抜**

特定の雄を利用して優良個体をつくる

そのなかからさらに優良な雄を選抜して交配

優良な雄は個体としての価値よりも、次世代をつくる精子をもつことに意義
精子生産と射精(交尾ではない)に集中

人工授精の誕生と普及

優良な雄による優良家畜の増産

- **最初の人工授精**

1780年、イタリアの生理学者スパランツァニ(L. Spallanzani)、イヌ
20世紀初頭、ロシアのイワノフ(I. I. Ivanov)、ウマ
のち、ウシやヒツジに応用

- **実際**

ウシの妊娠には、陰深部や子宮の入り口に5000万匹の精子の導入
1回の射精で100頭以上の雌に妊娠が可能

精液希釈液の改良

- **人工授精により可能になったこと**

雄のもつ遺伝情報をより正確に推察することが可能
その情報をもとに、多くの子どもの量産
優良な雄をさらに選抜し、利用

- **去勢も同時進行**